

第4学年 社会科 学習指導案

奈良教育大学 教育学部 社会科教育専修 3回生

197611 根本 優

1. 単元名 安曇野の水―等々力孫一郎の意志―

2. 単元の目標

○等々力孫一郎は様々な苦心や努力により、当時の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。

【知識・技能】

○等々力孫一郎の何としてでも拾ヶ堰を完成させるという思いを捉え、それを表現することができる。

【思考・判断・表現】

○水不足に悩んでいた人々の願いや等々力孫一郎の思いについて意欲的に調べたり、それを発信したりすることができる。

【主体的に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は「歴史と人々の生活」に区分され、地域の発展に尽くした先人の働きを学習することを通して、地域の人々の願いや思いのもと、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを、理解することをねらいとしている。

長野県安曇野市には「拾ヶ堰」という農業用水路がある。拾ヶ堰は全長 15 km、高低差 5 m で、標高 570m の等高線に沿って流れており、江戸時代後期に開削された。拾ヶ堰がつくられた背景には安曇野一帯の水不足があげられる。現在、安曇野市といえば田園風景が代表され、日本有数の米どころとなっている。しかし、安曇野の地形は扇状地で、水がなく栄養も少なかったため、当時は、アワやヒエしか作れない荒地が多かった。そのため、農民は貧しく苦しい生活を送っており、安曇野一帯に水を引くことで荒地を田んぼに変えて米作りをすることが農民の願いだった。その願いを実現するべく拾ヶ堰の構想を始めたのが、等々力孫一郎である。拾ヶ堰の工事は低い所から高い所へ水を引いたり、梓川や多くの用水を横断したりするなど、厳しい条件の中行われた。難工事であったにもかかわらず、わずか3ヶ月で達成している。その背景には27年の構想と綿密な計画があった。また等々力孫一郎は、大事業を達成するまでに事業反対派の百姓に襲われ、生涯片足が不自由になったが、それでも拾ヶ堰の工事を最後まで諦めることはなかった。そして、1816年に拾ヶ堰は完成した。現在でも農業用水路として活躍しており、850haの水田を潤している。しかし、人々の暮らしを現在も支えている拾ヶ堰の開削に大きく貢献した人物であるにもかかわらず、石碑などが建てられて称えられているわけでもなく、市民にあまり知られていない印象がある。

本単元では、なぜ等々力孫一郎が人々のために、命の危険にさらされながらも最後まで意志を貫き通したのかを追究していく。すべての人々が豊かに暮らせるという願いを実現するために最後までやり遂げた孫一郎の営みに出会いあこがれることができ、ESDの視点である責任性や公平性について考えられるという点で教材としての価値が高いといえる。

(2) 児童観

(省略)

(3) 指導観

まずは、安曇野市の代表的な田園風景を見せ、その風景が市民や観光客に愛される社会的事実に出会わせる。そこで実際に拾ヶ堰を見学する。見学では川の自然な流れと、拾ヶ堰の水の流れに着目し、この水の流れが当たり前ではないことに気づかせる。拾ヶ堰は自然に流れている川だと思っている児童が多い。等高線 570m に沿って流れるようにつくられているため、拾ヶ堰の一部区間では、山に向かって流れているところがある。このことから、人によってつくられたものであることを気づかせたい。そしてなぜ拾ヶ堰はつくられたのだろうという学習課題を設定し、拾ヶ堰がつけられた背景に迫っていくように展開にしたい。

次に、調べ学習を通して、拾ヶ堰の開削工事は厳しい条件の中であるにもかかわらず短期間で行われたことに気づかせる。また、なぜ難工事を短期間で行うことができた背景について調べることを通して、何とかして人々の生活を豊かにしたいという強い思いから入念に綿密な構想を練られていたことや自分の身に危険なことが起きても最後まで諦めずにやり遂げたことなど、等々力孫一郎の責任感のある行動を捉えさせたい。本単元でのこれまでの学習をふまえて、「なぜ等々力孫一郎はそこまでして拾ヶ堰を完成させたのだろう」という新たな学習課題を設定し、等々力孫一郎の思いに迫っていく。

最後に、今の拾ヶ堰に焦点を当て、拾ヶ堰を実際に使っている農家や拾ヶ堰守っている組合員の方にインタビューすることで、拾ヶ堰は 200 年経った今でも人々の暮らしに貢献していることや、拾ヶ堰を使い続けられるように守っている人いることを捉えさせ、現在でも拾ヶ堰は米作りをするうえで欠かせない存在であり、また、拾ヶ堰沿いに自転車専用道路が整備されていることから観光資源としても今後さらに注目されるだろう。これらのことから、これからも守っていかなければいけないものであることに気づかせ、当事者意識を持たせられるように展開していきたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

責任性…人々の生活を豊かにしたいという願いを実現する意志を最後まで貫く姿を捉える。

公平性…すべての人が豊かに暮らせるように行動した等々力孫一郎の姿を捉える。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

システムズ・シンキング…地域の人々の願いや等々力孫一郎の思いに捉え、自分で考えたことを発信する。

コミュニケーションを行う力…拾ヶ堰について積極的にお話を聞いたり、考えたりしたことを自分の言葉で表現する。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正…一部の人だけではなく、みんなが豊かに暮らせるようなまちづくりが大切である。

世代間の公正…今の世代だけでなく、次世代も豊かな暮らしができるように未来に伝えていく。

・ 達成が期待される SDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①拾ヶ堰のつくられた背景について調べることで、等々力孫一郎の苦心や努力によって当時の人々の生活に貢献したことを理解している。	①なぜそこまでして拾ヶ堰を完成させたのかについて、学習してきた内容と関連付けて考え、自分なりの言葉で表現している。	①拾ヶ堰について関心を持ち、意欲的に調べたり、話を聞いたりしている。 ②拾ヶ堰を守っていくことに対して当事者意識を持って行動しようとしている。

5. 単元の指導計画（全13時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 評価方法 （□）
1	<p>○拾ヶ堰を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市は米作りがさかんだよね。 ・写真を撮っている人がいるね。 ・拾ヶ堰沿いにある自転車道路でサイクリングを楽しんでいるね。 ・観光地の一つにもなっているんだ。 <p>○拾ヶ堰を探検する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川は普通、山から流れるのに、山の方に向かって流れているよ。 ・流れがとてもゆったりしている。 ・自然にある川ではないんだ ・長さは15kmもあるんだね。 ・高さの差は5mだから流れがゆったりしていたんだ。 ・等高線570mに沿って流れているよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> なぜ拾ヶ堰はつくられたのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市の代表的な田園風景や拾ヶ堰に沿ってつくられた「あづみ野自転車道」で、サイクリングをしたり、拾ヶ堰を写真で撮ったりしている人がいる様子を見せることで、観光客や市民から愛されているという社会的事実に出会わせる。 ・地図を準備する。 ・拾ヶ堰の流れに着目させることで、拾ヶ堰は人によってつくられた堰であることに気づかせる。 ・拾ヶ堰が流れているところに印をつけ、等高線570mに沿って流れていることに気づかせる。 	
2	<p>○拾ヶ堰がどのようにつくられたのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等々力孫一郎という人が中心になってつくったんだね。 ・川を横断させたり、水を低いところから高いところへ引いたりして、とても大変な工事だったんだね。 ・でも3ヶ月で完成させたのか。 ・しかも全て人力だよ。 <p>【問い】なぜ難しい工事だったにもかかわらず、わずか3ヶ月で完成させることができたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくる前に27年間かけて計画を立てていたんだ。 ・孫一郎は、反対派の人に襲われて、 	<ul style="list-style-type: none"> ・拾ヶ堰の開削工事は厳しい条件の中で行われていたにもかかわらず、わずか3ヶ月で完成させていることに気づかせる。 ・等々力孫一郎は、大事業を成功させるために、入念な準備をしたり、必ず拾ヶ堰を完成させるという強い責任感があったりしたことを捉えさせる。 ・これらの行動の背景にある等々力 	<p>△ア、ウ① 【発言】 【ノート】</p> <p>△ア、ウ① 【発言】 【ノート】</p>

	<p>片足が生涯不自由になったんだ。 ・厳しい中でも完成させようとしたんだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> なぜ等々力孫一郎はそこまでして拾ヶ堰を完成させたのだろう。 </div> <p>○当時の人々の様子，土地の様子について知る。 ・昔は，荒地だったんだね。 ・水不足で人々は貧しい暮らしをしていたんだ。 ・豊かな暮らしを願っていたんだね。</p> <p>○等々力孫一郎がどのような思いをもっていたのかを考える。 ・人々の生活が豊かになってほしいという強い思いがあったのかな。</p>	<p>孫一郎の願いに関心をもたせる。</p> <p>・紙芝居『拾ヶ堰物語』を読む。 ・今と当時を比較して，今では豊富に水があるが，昔は水不足で苦労していたことを捉えさせる。</p> <p>・拾ヶ堰を完成させるまでの等々力孫一郎の行動を思い出させ，当時の人々の様子や土地の様子と関連づけて考えさせる。</p>	<p>△イ 【発言】 【ノート】</p>
<p>3</p>	<p>○拾ヶ堰を守っている組合員へのインタビューをする。</p> <p>○拾ヶ堰を使っている人へインタビューをする。 ・200年経っても拾ヶ堰ができたおかげでたくさんのお米を作ることができているんだ。</p> <p>○等々力孫一郎の願いを受け継いで，拾ヶ堰をこれからも守っていくことでの，地域で守れるものは何かを考える。 ・きれいな水で作った質の良いお米を食べ続けることができる。 ・安曇野の田園風景を守ることができ→観光資源を守る。 ・農業に携わる人がこのままではいなくなって，このままでは田園風景がなくなるよ。 ・田んぼがなくなってしまえば，拾ヶ堰もなくなってしまふよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 拾ヶ堰を守っていくために，私たちにできることは何だろう。 </div>	<p>・なぜ拾ヶ堰を守りたいと思ったのかということを中心にお話いただく。 ・米作りをするときに水がいかに大切であるのか，拾ヶ堰があることによってどのような恩恵を受けているのかということを中心にお話いただく。 ・拾ヶ堰を守っている人，実際に使っている人の二者の立場のお話を聞き，拾ヶ堰は人々の生活を豊かにするためにこれからも守っていかなければならないものであることに気づかせる。</p> <p>・米作りをする上で水が大切であることや観光が地域に与える影響について触れる。</p> <p>・田園風景について着目させ，田園風景そのものをおびやかすものは何かを農業の課題と関連させながら考えさせる。</p>	<p>△イ 【観察】 【ノート】</p>

4	<p>○私たちにできることは何かを考え、話し合う。</p> <p>○拾ヶ堰のパンフレットを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾ヶ堰は人々の生活を向上させたいという思いが込められていることを伝えたい。 ・今の拾ヶ堰を未来につなげていくために自分ができることを伝えたい。 <p>○作ったパンフレットをおうちの人に紹介し、渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾ヶ堰のことについて知れてよかったと言ってきていたよ。 <p>○図書館や駅にパンフレットを置いてもらえるようにお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手に伝えたいことは何か、どのように構成すれば読みやすくなるのかを考えさせるようにする。 ・拾ヶ堰がつくられた背景にある思い、現在の拾ヶ堰がどのような存在であるのか、拾ヶ堰をおびやかす課題に触れながら、未来につなげていくためにできることを書かせる。 ・さらに色々な人にパンフレットに見てもらおうとするための動機付けを行う。 ・今後の学習も意欲的に取り組めるような声かけを行う。 	<p>△イ、ウ②</p> <p>【観察】</p> <p>【パンフレット】</p>
---	--	---	--